



Annual Report

2022

2022年度 年次報告書

30th anniversary



特定非営利活動法人 国際ボランティア学生協会

Annual Report 2022 INDEX

代表挨拶	3
2022年度事業ハイライト	4
事業報告	
地域活性化分野	6
環境保護分野	7
国際協力分野	11
災害救援分野	12
子どもの教育支援分野	12
その他の事業	14
研修	14
学生代表座談会.....	16
協賛企業一覧.....	20
メディア掲載一覧	20
収支報告	22
団体概要(30期学生組織)	23

代表挨拶

本年、本協会は発足から31年目を迎えましたが、この3年間は新型コロナウイルスの影響によって、これまで経験したことのないほどの長きに渡って活動を自粛・縮小してきました。

本協会の学生は、社会問題の解決のため様々な人たちと交流、交渉しながら活動を作り上げていきます。そして、活動の規模に応じて参加者を募集しチームを構成。本協会はインターカレッジであることからメンバーのほとんどが「はじめまして」から始まります。

そこから、チームが目指す成果を掲げ、勉強会などを通じて交流を深め、実践の場であるボランティア活動を通した社会問題の解決に挑んでいます。

これまで、後輩たちは先輩の背中を見て育ってきましたが、新型コロナによりその学びの場を失ったことは、活動地の人たちはもちろん、学生にとっても本協会にとっても大きな痛手となりました。

一方で、コロナによってやむを得ず行ったオンラインでの会議などは、新しい組織運営のスタイルとして定着しました。さらに活動に必要な研修・講習などもオンラインで実施し、ある程度の成果を得ながら、昨年夏から徐々に活動を再開し、2月からの春の活動に備えました。

今年の春のプロジェクトは、唯一、コロナ前の活動を経験した4年生が中心となり16本の活動に延べ1,411人が参加しました。このうち13本の活動に21社のマスコミ取材を受けました。

国際貢献事業では、カンボジア教育支援活動を3年ぶりに再開しました。活動期間中には2007年から始めたこの活動に対しカンボジア王国友好勲章の最高位である「マハ・シルブッダ(大十字章)」勲章をいただき、この授賞式はカンボジア国営テレビで放映されました。

また、30期の学生たちの発案で実施した、関東の「山手線一周清掃活動」と関西の「環状線一周清掃活動」には約600名の学生が参加し、コロナで自粛してきた思いをぶつける大規模なプロジェクトとなりました。学生たちは、完走後の足の痛みを忘れ、やり終えた達成感・満足感に溢れていました。

そして3月には次の事業展開として、本協会として5つ目となる地域連携協定を長野県飯山市と結びました。現在、卒業生の中から移住者を募集し、ビジネスの手法を使った地域活性化事業の展開に取り組んでいます。

それにしても、社会のリスク要因は増え、ますます不安定化になっています。そのような状況を少しでも軽減するために、多くの卒業生にも加わってもらいながら、これまで以上に活動の質の向上と量の拡大を図っていきます。

今後とも、皆様の一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 国際ボランティア学生協会
代表理事 下村 誠



2022年度 事業ハイライト



東京で山手線一周・ 大阪で環状線一周清掃を行いました

3月、海洋ごみ・プラスチック問題の啓発を目的として、東京では山手線沿線に沿って一周約35km、大阪では環状線沿線に沿って一周約25km、歩きながらゴミ拾いを行い、東西併せて約550人の学生が参加しました。

回収したごみの量は東西併せて約500袋と多くはありませんでしたが、街の人たちからは「何やってんの?」「一周してんの!?!」「頑張れよ!」といった声援を頂き、IVUSA 従来からの「拾う心より捨てない心」と、SDGsの「作る責任、使う責任」の啓発と認知度向上に繋がりました。

尚、この活動は9月の役員合宿の中で行われた学生による夢企画（新規企画開発ワークショップ）の中で発案され、30期の最後の活動として実施されました。





災害救援活動を本格的に再開



コロナ禍以降、災害救援活動をほとんど実施できていませんでしたが、今年度はIVUSAが日頃活動している地域が多く被災したこともあり、積極的に活動を実施しました。

また、コロナ禍で災害救援活動のノウハウが継承できていなかったこともあり、災害ボランティアセンターの開所から閉所まで活動することで、被災地ではどういったことが求められるのかを活動を通して学ぶことができました。

特に宮城県山元町と新潟県関川村は、卒業生も学生時代に訪れた人が多い地域だったため、コロナ禍以前に比べても卒業生の活動への参加が多くありました。

また、関川村に対しては、卒業生有志が、卒業生を対象に義援金を募り、総額863,000円が集まり、それをIVUSAがお預かりし全額関川村にお渡ししました。

3つの災害に対して、延べ学生481名、卒業生152名が参加し、1年間の活動数は過去最多の23回となりました。

尚、これらの活動に対して各地から感謝状をいただきました。



カンボジア政府から「カンボジア王国友好勲章-マハ・シルヴッタ」が授与されました

2023年2月に3年ぶりとなるカンボジア現地での活動を実施しましたが、その中でカンボジア王国友好勲章-マハ・シルヴッタの授与式がありました。これは、10年以上のカンボジアでの教育支援活動を評価されたもので、カンボジアの外国人に贈られる勲章の中で最上級のもののになります。

授賞式は、IVUSAが建設したチョンコ小学校の3年越しの開校式の中で行われ、カンボジア政府首相特別顧問、内務副大臣シン・ブンレーンさんから下村誠代表理事、今回の活動の幹部、4年生に勲章や感謝状が贈られました。



地域活性化 事業報告

宮城県山元町 東日本大震災復興支援活動



活動日時: 6月17日～19日、8月25日～29日、10月15日～16日、11月4日～7日、1月27日～29日、3月9日～13日

活動場所: 宮城県亘理郡山元町

参加人数: 234名

活動内容: 祭り運営、道普請や地域の困りごと対応、海岸清掃、3.11慰霊祭運営

カウンターパート: 普門寺、お寺災害ボランティアセンター、土曜の会、震災遺構中浜小学校、山元町役場

成果・課題: 3月の慰霊祭が13回忌の節目を終え、復興に向けた多岐にわたる地域の課題が顕在化しました。これらに対する具体的なアクションを定めていく必要性があります。

長野県飯山市活性化活動



活動日時: 5月28日・29日・7月16日・17日・10月1日・2日・2月9日～13日

活動場所: 長野県飯山市

参加人数: 116名

活動場所: いいやま雪まつりの企画・運営補助／柿農園の整備・収穫・販売

カウンターパート: 飯山市、いいやま雪まつり実行委員会、飯山商工会議所、イビューサバート飯山みゆき野、かまくら応援隊、飯山市針田地区、飯山市上野地区、戸狩温泉スキー場株式会社

成果・課題: コロナ禍で飯山を訪れたことがない学生がほとんどの状態の中で無事に活動を実施できました。柿の収穫・販売は初の試みであったため、ほとんど収益にはならず、今後、地域の活性化に

繋げつつ、事業を持続させていくために収益化を実現していくことが課題です。

三重県熊野市活性化活動

活動日時:

8月14日～8月18日

活動場所: 三重県熊野市

参加人数: 25名

活動内容: 地域のお盆行事（火とぼし・灯笼焼き）の体験やフィールドワーク

カウンターパート: 熊野市・熊野市地域おこし協力隊・熊野市観光協会

成果・課題: コロナ禍で熊野市を訪れたことがない学生が大半となってしまいましたが、今回の活動で地域

の様々な体験ができたため、熊野市での地域貢献活動に意欲的な学生を育てることができました。地域のお盆行事を含む多くの文化・伝統が、人手不足などの要因で運営が難しくなっていることです。



岡山県備前市日生諸島活性化活動



活動日時: 9月2日～9月5日、1月28日～29日、3月3日～3月6日

活動場所: 岡山県備前市日生町 頭島、鹿久居島、大多府島

参加人数: 148名

活動内容: 「住民参加型の里海のテーマパークを作る」ことを活動の目的とし、里海の保全のための活動を実施

カウンターパート: 一般社団法人みんなであげん、ひなせうみらぼ、備前観光協会、備前市、日生町漁業協同組合

成果・課題: 備前緑陽高校の生徒と頭島清掃活動を実施しました。クロダイ（チヌ）の啓発ポスターの作成。漁師さんと協力し、船でしか行けないゴミが溜まりやすい場所の清掃活動をしました。

新潟県関川村七ヶ谷 雪ほたるまつり活性化活動

活動日時: 2月11日～2月14日

活動場所: 新潟県関川村

参加人数：25 名

活動内容：雪ほたるまつりの運営支援、8 月豪雨災害で被害のあった高田地区への訪問

カウンターパート：関川村役場、関川村 IVUSA 後援会、タランペ倶楽部、大石・山と川に親しむ会

成果・課題：3 年ぶりの関川での活動で、再開に向けた関係の再構築を目的に活動が実施できました。



利島椿産業保全プロジェクト



活動日時：8 月 6 日～11 日

活動場所：東京都利島村

参加人数：33 名

活動内容：椿農家 7 軒、22 箇所の椿畑下草刈り

カウンターパート：利島村、利島農業協同組合、株式会社 TOSHIMA

成果・課題：椿農家 7 軒、22 箇所の椿畑下草刈りを実施しました。

千葉県佐倉市活性化活動



活動日時：3 月 26 日～28 日

活動場所：千葉県佐倉市

参加人数：40 名

活動内容：西部自然公園の遊歩道整備・遊具制作

カウンターパート：千葉県佐倉市

成果・課題：公園北西竹林域の遊歩道開削、3 種類の遊具制作をしました。

静岡県西伊豆町活性化活動



活動日時：5 月 28 日～29 日、6 月 11 日～12 日、7 月 2 日～3 日、8 月 14 日～17 日、9 月 9 日～12 日、10 月 22 日～23 日、11 月 12 日～13 日、11 月 19 日～20 日、12 月 3 日～4 日、2 月 25 日～26 日、3 月 2 日～6 日

活動場所：静岡県西伊豆町・松崎町、静岡県静岡市清水区

参加人数：317 名

活動内容：耕作放棄地再生による 6 次産業化事業、海岸清掃、文化財清掃、森林整備、イベント運営補助、商品開発、等

カウンターパート：西伊豆町

成果・課題：6 次産業化に向けた試作品（コロッケ）が出来た。今後のソーシャルビジネスの拡大と持続可能性の構築が課題

環境保護 事業報告

千葉県九十九里浜全域清掃大作戦



活動日時：9 月 2 日～6 日

活動場所：千葉県九十九里浜全域（旭市～いすみ市）

活動内容：全長 66 km を徒歩による美化活動

参加人数：170 名

カウンターパート：旭市、いすみ市、一宮町、大網白里市、九十九里町、山武市、白子町、匝瑳市、長生村、横芝光町

成果・課題：コロナ禍による活動休止で停滞していた「移・食・住」など活動の根幹を担う作り手育成の再開につながりました。

こどもの国での竹林整備活動



活動日時：6月5日、7月3日、9月18日、10月16日、11月20日、12月18日

活動場所：神奈川県横浜市こどもの国

参加人数：82名

活動内容：園内整備、竹林整備

カウンターパート：児童厚生施設こどもの国

成果・課題：日帰り現場系の活動として気軽に参加できる活動となっていますが、その一方で安全管理等の現場研修としての役割を担いにくくなっています。

長崎県対馬市海岸清掃活動

活動日時：8月11日～14日、3月13日～16日

活動場所：長崎県対馬市

参加人数：91名

活動内容：

海岸清掃、クリーンセンター見学、シーカヤック体験、観光

カウンターパート：長崎県、対馬市、一般社団法人対馬 CAPP

成果・課題：海洋ごみ問題が非常に深刻な対馬で、一つの浜のごみをすべて撤去しました。また、8月の活動ではお笑い芸人のやす子さんと一緒に活動し、テレビ東京系の「海のごみぜんぶ拾う大作戦」(9月17日放送)で紹介されました。

ラブリー山中湖環境美化活動

活動日時：8月1日～2日

活動場所：山梨県山中湖村

参加人数：22名

活動内容：花火大会でのごみパトロール、湖岸清掃、子ども向け環境ワークショップ

カウンターパート：ラブリー山中湖有志の会、山中湖村

成果・課題：現地カウンターパートが様々な面で協力してくださり、新しいプロジェクトとしてスタートさせることができました。ただ、ワークショップの参加者リクルートが課題でした。

千葉ソーラーシェアリング スタディツアー

活動日時：5月29日、6月25日、7月3日、8月22日、9月19日～20日、10月22日、11月19日、12月3日

活動場所：千葉県千葉市

参加人数：72名

活動内容：太陽光発電の見学、農業体験

カウンターパート：千葉エコ・エネルギー株式会社

成果・課題：日帰りのできる活動として、初めての参加という会員が多かった一方で、リピーター確保が課題となりました。

オオバナミズキンバイ除去活動



活動日時：6月25日・7月9日・7月10日・9月2日・9月6日～8日・10月9日・11月19日～20日・12月4日

活動場所：滋賀県大津市・草津市・守山市・高島市・京都府京都市

参加人数：285名

活動内容：特定外来生物オオバナミズキンバイの除去活動

カウンターパート：琵琶湖外来水生植物対策協議会、滋賀県、高島市、草津市、守山市、独立行政法人水資源機構、湖西漁業協同組合、南湖東岸ゆうゆうパートナーズ、山田漁業協同組合、玉津小津漁業協同組合、京都府、鴨川を美しくする会、一般社団法人 鴨川流域ネットワーク

【助成】公益財団法人平和堂財団

【寄付】びわ湖チャリティー 100km 歩行大会

成果・課題：11月に高島市で実施した活動では、滋賀県庁指導のもと、工程を大幅に削減することができる「淀川方式」という新しい除去方法を実践することができました。この除去方法は、作業効率の向上や様々な負担を軽減させる上で画期的な手法ではあるが、琵琶湖でも効果があるのかは引き続き検証していく必要があります。多くのニーズに応えるために試行錯誤しながら「淀川方式」を確立していくことが課題。

琵琶湖湖岸清掃



活動日時：9月13日～15日、3月16日～18日

活動場所：滋賀県米原市・彦根市・長浜市

参加人数：165名

活動内容：琵琶湖の湖岸に漂着したゴミの清掃

カウンターパート：彦根市、米原市、長浜市、長浜漁業協同組合、独立行政法人水資源機構

成果・課題：IVUSA 単独での清掃活動となっており、地元の住民を巻き込んだ清掃活動が行えていないことが課題です。

長野県信濃町森林整備活動



活動日時：8月4日～7日

活動場所：長野県信濃町

参加人数：17名

活動内容：町有林の整備（草刈りや倒木の運搬など）

カウンターパート：信濃町森林療法研究会「ひとときの会」、信濃町

成果・課題：目標としていた、森林セラピーで使用する全ての区画を整備しました。

琵琶湖の研究者になろうツアー ～家棟川探検隊！水と生き物を調べてみよう！～



活動日時：10月30日

活動場所：滋賀県野洲市

参加人数：7名

活動内容：家棟川やその支流での生き物・周辺環境の観察・水質調査と子どもたちによる意見交換・発表会

カウンターパート：マザーレイクゴールズ推進委員会・滋賀県

成果・課題：MLGs（びわ湖版 SDGs）の達成に寄与するために、大学生たちが1から企画したイベントが無事に実施できました。専門的な知識も多く必要となるため、大学生たちが中心となって、今後も継続して実施していくことが課題です。

京都府阿蘇海環境づくり活動

活動日時：7月3日、8月23日～26日、2月24日～27日

活動場所：京都府宮津市、与謝野町

参加人数：121名

活動内容：天橋立により外海と隔てられた内海である阿蘇海で、豊かな海づくりをテーマに行政や地域住民などと連携して、海岸清掃や大量に堆積したカキ殻の回収、子ども向けの環境学習会などを行いました。

カウンターパート：阿蘇海環境づくり協働会議、京都府丹後広域振興局、宮津市、与謝野町、吉野茶屋

成果・課題：3年半ぶりとなる地域住民と協働して行うカキ殻回収イベントを実施し、約30名の方にご参加いただきました。また、学生と年齢の近い20代の漁師さんやソーシャルビジネスをされている方との新たなつながりを作ることができました。一方で、これまで富栄養状態にあり、それによる環境問題に取り組んできましたが、現在の阿蘇海は貧栄養化していることが新たにわかり、これまでと違った取り組みが求められています。



長野県伊那谷環境保全活動



活動日時：6月18日～19日、9月3日～5日、9月17日、10月29日～30日、3月14日～16日

活動場所：長野県飯田市、東京都世田谷区

参加人数：85名

活動内容：長野県伊那谷地域（飯田市など県南部）にて、放置竹林問題に対して地元NPOや住民と連携し、竹林伐採や幼竹を活用した国産メンマづくりなどを行いました。

カウンターパート：飯田市、NPO法人いなだに竹Links

成果・課題：地元出身の大学生や高校生をはじめとする地域住民を巻き込んだ活動を実施することができ、徐々にではありますが地域に根差した活動にすることができました。

大阪環状線一周清掃活動

活動日時：3月24日

活動場所：大阪府大阪市

参加人数：249名

活動内容：SDGs 目標 12 の「つくる責任、つかう責任」、14「海の豊かさを守ろう」を啓発し、2019年のG20サミットで合意された「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」達成に貢献することを目的とし、大阪環状線一周清掃活動を実施

カウンターパート：大阪市、大阪市中部環境事業センター、西日本旅客鉄道株式会社、大阪城公園パークセンター、日本たばこ産業株式会社

成果・課題：119袋のごみを回収。読売テレビのかんさい情報ネットen.にて特集が放映され広く活動を発信することができました。



山手線一周清掃活動



活動日時：3月22日

活動場所：東京都山手線沿線 12 区（渋谷区・新宿区・豊島区・北区・文京区・荒川区・台東区・千代田区・中央区・港区・品川区・目黒区）

参加人数：255名

活動内容：清掃活動

カウンターパート：東京都山手線沿線 12 区

成果・課題：各種類ゴミ計 220 袋 (45 リットル袋)

かいぼり体験のサポート

活動日時：10月1日

活動場所：長野県伊那市

参加人数：11名

活動内容：「海と日本プロジェクト」の一環で、海洋ごみ問題啓発のイベントとして開催されたかいぼり活動のお手伝い。

カウンターパート：日本財団、テレビ東京ダイレクト

成果・課題：参加した学生からは、「初めてのかいぼりで勉強になった」「地元の方と活動することが楽しかった」とありました。



山形県日本海沿岸清掃活動



活動日時：8月23日～27日、11月26日～27日、3月8日～10日

活動場所：山形県酒田市、遊佐町、鶴岡市

参加人数：223名

活動内容：海洋漂着ゴミの回収、海洋漂着ゴミ学習のセミナー

カウンターパート：特定非営利活動法人 パートナシップオフィス

成果・課題：各種類ゴミ計 1,674 袋 (45 リットル袋)

石垣島海洋漂着ゴミ水際掃討大作戦

活動日時：2023年2月22日～27日

活動場所：沖縄県石垣市

参加人数：78名

活動内容：海洋漂着ゴミの回収、アップサイクル体験

カウンターパート：合同会社 縄文企画

成果・課題：各種類ゴミ計 1,206 袋 (45 リットル袋)

多摩川清掃活動



活動日時：6月17日

活動場所：東京都世田谷区

参加人数：学生6名、大和ハウス工業株式会社の社員約130名

活動内容：多摩川の川辺の清掃

カウンターパート：大和ハウス工業株式会社・京浜河川事務所

成果・課題：大和ハウス工業株式会社のCSR活動の一環として実施され、多くの社員の方々が参加してくださいました。

千葉県印旛沼クリーン大作戦



活動日時：8月28日～30日

活動場所：千葉県印西市

参加人数：47名

活動内容：神崎川の外来水生植物ナガエツルノゲイトウの駆除

カウンターパート：千葉県、印旛沼流域水循環健全化会議、独立行政法人水資源機構千葉用水総合管理所、印西市、八千代エンジニアリング株式会社、鹿島川土地改良区印旛土木事務所、特定非営利活動法人環境パートナーシップちば

成果・課題：21トンのナガエツルノゲイトウを除去

国際協力 事業報告

カンボジア子ども教育支援活動 2023

活動日程：2月13日～21日

活動場所：カンボジア王国コンポンチャム州、クロチェ州

参加者：36名

活動内容：小学生との交流、小学校の開校式に参加、遊具づくり、キリングフィールドとトゥールスレンの見学

カウンターパート：KHJ Construction Co.Ltd

成果・課題：3年ぶりとなる活動でチョンコ小学校の開校式を実施できました。さらに1次隊からこれまで主に活動が続けてきたコンポンチャム州について子供たちの教育環境が改善をされたということで、新たにクロチェ州へ訪れ候補地視察を行いました。今後はカンボジア都市部の経済成長に加え円安による小学校建設費や派遣費用の高騰が懸念され、小学校建設に限らない支援の形も検討が必要。



留学生との交流会

活動日程：6月24日、8月26日、11月1日

活動場所：青山国際教育学院

参加者：23名、青山国際教育学院の留学生80名

活動内容：クイズ大会、団体紹介、テーマトーク

カウンターパート：青山国際教育学院

成果・課題：日本人と交流することが少ない留学生にとって、同年代の学生と交流する貴重な機会となりました。



国際協力に関する リスタートワークショップ

活動日程：10月1日～2日

活動場所：東京国際フォーラム

参加者：13名

活動内容：グローバルフェスタ JAPAN2022の中でユースの国際協力団体の活動紹介

カウンターパート：グローバルフェスタ JAPAN2022 実行委員会

成果・課題：コロナで停滞していた国際協力分野の団体の交流や情報交換をする場となりました。



災害救援 事業報告

令和4年福島県沖地震 災害救援活動

活動日時: 4月7日～10日、4月15日～17日、4月22日～24日、
4月28日～5月5日、5月26日～29日

活動場所: 宮城県山元町、角田市、丸森町、福島県南相馬市

参加人数: 142人

活動内容: 被災家屋内外の片付けや、雨漏りで傷んだ家屋の補修、
ブロック塀の解体などを中心に活動しました。

カウンターパート: 公益財団法人車両競技公益資金記念財団、山元
町災害ボランティアセンター、南相馬市災害ボランティアセンター、
お寺災害ボランティアセンター、普門寺

成果・課題: 延べ142名が参加し、合計26件のニーズに対応いた
しました。



令和4年8月豪雨災害救援活動



活動日時: 8月7日～16日、8月20日、21日、8月27日～30日、
9月2日～4日、9月8日～11日、9月16日～19日、9月22日

～25日

活動場所: 新潟県関川村、村上市

活動人数: 224人

活動内容: 関川村とは地域連携協定を締結しており、発災直後から
活動させていただきました。災害ボランティアセンターの運営支援
や役場との意見交換・助言をさせていただいたほか、被災家屋内外
の災害廃棄物の片付けや運搬、家屋内の泥の除去・床や壁の除去、
洗浄・乾燥・消毒などを行いました。

カウンターパート: 公益財団法人車両競技公益資金記念財団、関川
村役場、関川村災害ボランティアセンター

成果・課題: 延べ224名が参加し、合計19件のニーズに対応いた
しました。

令和4年台風15号災害救援活動

活動日時: 9月30日～10月2日、10月7日～10日、10月14日
～16日、10月21日～23日、10月28日～30日、11月4日～6日、
11月11日～13日、11月18日～20日、11月25日～27日

活動場所: 静岡県静岡市葵区 **参加人数:** 304人

活動内容: 住民へのニーズ調査、被災家屋内外の災害廃棄物の片付
けや運搬、家屋内の泥の除去・床や壁の除去、洗浄・乾燥・消毒な
どを行いました。また、小学校のビオトープの復旧作業や、旅館、
農家さんのビニールハウス内の泥の除去なども行いました。

カウンターパート: 公益財団法人車両競技公益資金記念財団、静岡
市災害ボランティアセンター

成果・課題: 延べ304名が参加し、合計29件のニーズに対応いた
しました。



子どもの教育 支援事業報告 才教学園STEAM教育学習支援



活動日時: 9月30日～10月1日

活動場所: 長野県松本市才教学園小学校

参加人数：10名

活動内容：児童のSTEAM学習テーマ「防災」の実施支援。避難所運営訓練

対象：6年生39名

カウンターパート：学校法人教学園

成果・課題：小学6年生を対象とした学習会、訓練の実施。事例、実績としてほかの学校にも横展開していくことを目指します。

子ども向け教育支援事業 (生活困窮家庭の子どもへの学習支援)

活動日時：通年

活動場所：京都府京田辺市、大阪府泉大津市

参加人数：43名

活動内容：学習支援事業

対象：京田辺市の生活困窮世帯の小中高校生（延べ参加数103名）、泉大津市の生活困窮世帯の中高校生（延べ参加者数43名）

カウンターパート：京都府京田辺市、大阪府泉大津市

成果・課題：京田辺市では週2回、泉大津市では週1回、安定的に開催することができ、地域からの評判もよく利用者が増えています。

京都市だいが地域若者応援隊事業



活動日時：通年

活動場所：京都市伏見区醍醐地域

参加人数：93名

活動内容：子どもの居場所に参加し、子どもたちと一緒に過ごし、遊びや学習等の活動をサポート

カウンターパート：京都市

成果・課題：コロナ禍における事業活動の制限も緩和されたこともあり、合計23件の活動を実施することができ、のべ93名の学生が参加するなど、件数・参加人数ともに、前年度（11件、のべ51人）と比較して、ほぼ倍増しました。子どもの教育支援に関する取組だけでなく、「だいまちづくりプレイヤー養成講座」や「スマートフォン活用講座」といったまちづくりに関する活動への参画により、「子ども」や「教育支援」というキーワードに興味があって活動に参加している学生に、「まちづくり」という分野への興味が広がり、意欲を高めることができました。

新潟県双葉寮・聖母愛児園 オンライン学習支援、 新潟県長岡市双葉寮支援活動



活動日時：通年、8月13日～24日、3月24日～26日、3月27日～30日（対面活動）

活動場所：オンライン、新潟県長岡市

参加人数：264名

活動内容：児童養護施設双葉寮の子どもに対して学習支援

対象：延べ188名

カウンターパート：新潟県双葉寮、聖母愛児園



特別顧問からのメッセージ①

この度、設立30周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

近年、地球環境が大きく変化し、日本列島を襲う自然災害は年々深刻さを増しています。加えて、過疎高齢社会は地域の持つ力を大きく減退させ、災害に襲われた地域の復旧・復興にはNPO・ボランティアによる支援活動は不可欠な存在となっています。

コロナ禍の3年間において様々なミッションの中止を余儀なくされましたが、福島県沖地震での救援活動の再開に併せ、事務局スタッフの尽力と経験豊かなOB・OGによるサポート、現役メンバーの熱い想いにより、2022年の被災地への派遣回数は過去の記録を更新し、災害救援に強いIVUSAの復活を示してくれたことは何よりの喜びでした。

奥尻島への救援活動に始まり、過去30年間日本各地に残したIVUSAの足跡は数知れず、東日本大震災被災地への支援活動は現在も後輩たちに引き継がれ、東北の被災地に光を照らし続けていることは、東北出身者として感謝に耐えません。

災害救援活動を大きな柱とするIVUSAへの期待は益々高まっています。これからも知識と技術の研鑽に努め、先輩たちが築いてきた伝統を引き継ぎ、更なる活躍を楽しみにしております。



日本財団 黒澤 司

成果・課題：通年の実施で、137 回実施。オンラインだけではなく、対面での支援をすることができました。

学び場イコカナ

活動日時：通年開催 (週 1 回)

活動場所：たまでんカフェカフェ山下、成勝寺

活動内容：小学生対象学習支援

カウンターパート：NPO 法人まちこらぼ、成勝寺 (場所提供)、世田谷区 (活動費助成)

成果・課題：場所探しを通じ、新たな地域資源の創出に繋がりました。実施場所が安定せず変更が重なり、利用家庭の負担をかけてしまいました。週 1 回 2 時間の学習時間だと、十分に学力向上に寄与できなかったか不明。



その他の事業 事業報告 オンライン活動報告会



活動日時：5 月 22 日

活動内容：2021 年度に実施した活動の報告

成果・課題：約 2,000 名の人に視聴してもらうことができました。

沖縄県戦没者遺骨収集活動

活動日時：9 月 7 日～ 12 日、2 月 7 日～ 12 日

活動場所：沖縄県糸満市

参加人数：71 名

活動内容：戦没者の遺骨収集、戦争資料館見学、慰霊式典

カウンターパート：沖縄県平和祈念財団、戦没者遺骨収集情報センター

成果・課題：戦没者 (見込み) 御遺骨 3 柱、遺留品 5 点



世田谷区 市民活動支援コーナー運営



活動日時：通年

活動場所：東京都世田谷区

活動内容：市民活動支援施設の管理運営

カウンターパート：公益財団法人 せたがや文化財団

成果・課題：2022 度開館 312 日、2,430 件、7,782 人利用

研修 事業報告 スタートアップ研修

日時：7 月～ 12 月

場所：オンライン (2023 年度以降はオンラインの他に対面での形態を再開予定)

受講人数：1,142 人

研修内容：IVUSA の会員として必要な知識や心構えを学ぶとともに、社会人になる準備期間として「自分の可能性を広げる」ための挑戦を促します。

スタッフ研修

日時：5 月～ 3 月

場所：オンライン (2023 年度以降はオンラインの他に対面での形態を再開予定)

受講人数：524 人

研修内容：スタッフ会員として必要なコミュニケーションスキルや、マネジメントに関する考え方を学びます。

マネジメント研修

日時：7 月～ 2 月

場所：オンライン、静岡県西伊豆町

受講人数：150 人

研修内容：クラブやプロジェクトの運営層として必要なチームマネジメントやリスクマネジメントについて学びます。

危機対応講習(実技)

日時：7月～1月

場所：東京都世田谷区、大阪府高槻市、静岡県西伊豆町

受講人数：176 人

研修内容：搬送法・包帯法・心肺蘇生法について、実技を通して学びます。



ロジスティクスマイスター講習



日時：5月～3月

場所：オンライン、東京都世田谷区、大阪府高槻市

受講人数：9 人

研修内容：活動の根幹となる移動・食事・住環境・装備について学ぶとともに、活動を行う上での安全管理について学びます。

研修インストラクター講習

日時：4月～3月

場所：オンライン

受講人数：130 人

研修内容：インストラクターとして必要な心構え・知識・スキルを学びます。

プロジェクト運営 スタッフ向け実務研修

日時：7月～1月

場所：オンライン

受講人数：450 人

研修内容：活動における各役職に求められる役割と、その業務について、必要な知識やスキルを学びます。



特別顧問からのメッセージ②

「祝30周年、そしてお礼」

IVUSA の 30 周年、おめでとうございます。

IVUSA の皆さんと、私どもの関川村が、おつきあいをさせていただきましたのは、2004 年の夏からです。

20 年がたちました。

そのとき関川村は、前年の 03 年 3 月に、いわゆる「平成の市町村合併」には参加せず、頑張ろうと、7000 人の村民が自立の道を歩みはじめていました。

この自立しようとしている小さな関川村を助けたい、というのが、IVUSA の方々の来村目的でした。

東京から普通夜行列車で、JR 羽越本線「坂町」駅で下車された 40 名の学生の方々を村のマイクロバスで 10km 山奥の関川村へ案内し、初めての対面式です。

「大蛇パレードは明後日だから、ゆっくり休んで・・・」と村長の立場にあった私が申し上げました。そしたら「いますぐに、イベントの準備や、村の仕事をサポートさせて…」と希望され、おどろきました。

これが「IVUSA 精神」だったのです。下村代表が学生たちについて来られ、IVUSA の本質を、私に説明してくださいました。

IVUSA の来村は毎年連続となり、地域連携協定を締結させていただいたのは 14 年 8 月 1 日、関川村発足 60 周年記念式典の日でした。

以来、村民も皆さんとの交流が深まり、数年後からは、「おかえりなさい」「ただいまもどりました」「いってまいります」「来年はもっと良い子になって帰れ」などと言える間柄（あいだ）になりました。

そして昨年 2022 年 8 月。「8・3 豪雨」で、村内、一部の集落が浸水・がけ崩れで被災した時。早速来援され、14 日間延 341 人という、大活動を展開してくださいました。

皆さんの見事な救援ボランティア活動に、関川村村民は感激しています。ありがとうございました。

18 年に「関川村 IVUSA 後援会」を立ち上げ、村民会員 100 人をめざしています。

IVUSA の皆さんと、さらなる交流を深めてゆこうというのがネライです。事務局は、平田誠さん（関川村・小見）、佐藤袈裟之さん（関川村・下関）さんと、しばらく、私平田大六が代表をつとめさせていただいております。ご指導ください。

IVUSA の、さらなるご発展をお祈り申し上げます。

関川村前村長 平田 大六



学生代表座談会



30周年を記念して、歴代30人の学生代表の中から、年代や性別、出身大学のバランスを考慮して選ばれた以下の5人が宮坂事務所で、2023年6月19日に「座談会」をしました。

長谷川 誠 (5期・国土舘大学卒)

池田 深和 (8期・国土舘大学卒、座談会の司会)

小久保 淳 (13期・法政大学卒)

升谷 維吹 (27期・近畿大学卒)

島田 晴 (30期・関西大学卒)

！自己紹介

池 田：まずは今、どんな仕事をされているかと、学生時代はどんなだったかを教えてください。若い順からいきましょう。

島 田：ついこの間まで学生をやっていました。今は、株式会社リクルートに勤めていて、人材紹介のコンサルのようなことをしています。といっても9月までは研修ということで、私を含め6人ずつの新入社員でチームが生まれ、そこに一人ずつトレーナーが付いています。学生時代で一番思い出に残っているのは、4年の最後の3月にやった東京山手線・大阪環状線の一周清掃です。これは4年の9月に行われた役員合宿の中での話し合いから生まれた学生発の「夢企画」で、実現し

たのは久しぶりだと思います。参加者の満足度も高く、「来年も絶対にやります！」と言ってくれた後輩も何人もいて嬉しかったですね。

升 谷：私は47CLUBという会社で、全国各地の地域の逸品を紹介していく仕事をしていますが、その中でも法人営業のリーダーをしています。私はクラブマネージャーのほか、新潟県長岡市の栃尾地域の活性化活動に参加することが多かったのですが、活動よりも事務所をはじめいろんな場所で夜遅くまで話し合っていたことの方が思い出に残っています。真面目な議論ばかりしていたわけではないですが、仲間たちと一緒に何かを作り上げていくということはとても刺激的でした。ただ、どんなことを話し合ったかはほとんど覚えていません。(笑)



▲島田さん(右側、中央は三日月滋賀県知事)



▲升谷さん（愛媛県宇和島市での豪雨災害救援活動の時）

小久保：今は大樹生命という会社で営業をしている人のバックヤードの支援をしています。私は当時、「千代田支部」と言われているところの支部長をしていました。IVUSA がインカレでの展開を本格化した時代でしたね。一番印象に残っているのは1年の時に行ったインドの活動です。私は1年の時はほとんど IVUSA に出て来ていなくて、先輩から誘われてインドに行くことになったものの、誘った先輩は来ないし、当日まで行きたくありませんでした。でも、現地の人から「ありがとう」と言われ、活動を終えて夕日を見たときに、仲間と一緒に感動できることに涙が止まらなくなって、帰ってきたら生まれ変わったような気持ちになったのを覚えています。

長谷川：カナダ株式会社という商社で海外事業推進室マネージャーをしています。なぜか今年から品質コンプライアンス室も兼務しております。私は阪神淡路大震災が起きたときに IVUSA に入りました。当時はどこかの団体に入らないと被災地に入ることができなかったものですから。元々は社会貢献などするタイプではなかったのですが、震災はじっとしていられなかったです。今思うと災害派遣は「笑顔のないボランティア」であったと思います。本当に大変な現場では、「ありがとう」という言葉もないこともありました。

池 田：皆さん、ありがとうございます。私も少し話すと、1年のときにカザフスタンの遺骨収集に行ったのが初めての活動でした。2年になるとき、他の部活の人に恋して、下村代表に「その人を追いかけるために IVUSA を休みます」と言って、しばらく離れていました。（笑）3年の時に、台湾での地震の救援活動に行ったのが一番大きかったですね。海外で、かつ災害現場なので自分の身は自分で守るしかない、「学生だから」ということが一切通用しない。そこでの緊張感と達成感がせめぎ合ったヒリヒリした経験を経て、自分も大きく

変わったと思います。今は車両競技公益資金記念財団という公益財団で仕事しています。

！IVUSAの経験は、社会に出てから本当に役に立っている？

池 田：IVUSA では学生会員に対して「社会人基礎力」とか「社会力」という言葉を使って、IVUSA での経験や学びが、社会に出てから役に立つということを強調しています。それが本当なのか、先輩たちに聞いてみましょう。では、最初はやっぱり社会に出たばかりの島田さんからお願いします。

島 田：研修はチームで進めるのですが、そのチームビルディングに学生代表やクラブマネージャーでのマネジメントの経験は活かしていますね。具体的には、目標（ノルマ）を達成するため戦略を考えたり、モチベーションが上がらない他のメンバーをフォローしたりするところとかです。

長谷川：お話を聞いていると自分の時代と違い過ぎて IVUSA の歴史の長さを感じますね。私の世代は、人類の歴史でいえば、腰に布を巻いて火を使い始めたころで（笑）、当時の就職活動ではボランティア活動を話すことなんてなかったです。いつから IVUSA では「チームビルディング」とか言うようになったんですか？

小久保：たぶん転機になったのが私たちの代くらいじゃないですかね。組織化して拡大路線を取るようになったので。私は先輩にたくさんいた「泥臭い人」に憧れていたのですが、結果的にはなれませんでした。

池 田：それは周りの評価とは違っているかもしれないですけどね。（笑）

升 谷：私はやっぱり自分よりも年上の大人の人たちと、活動の運営や交渉で接する経験ができたのが大きかったですね。社会に出ても、年上の先輩に委縮することはありませんでしたし、今でもちょっとハードルが高いと思うのは、社長（50代）くらいです。



▲長谷川さん（右下の腰にシャツ巻いてる人）



▲対談の様子

長谷川：確かに。いろんな人がいたので営業には役に立った。耐性が付いたというか。あとはお腹を壊さなくなった。

小久保：宴会芸とかお笑い関係ならたくさん得たものはありますけどね。酔って全●になっても何も思わなくなりましたし。先輩からの理不尽なこともありましたが、話したこともなかった先輩から「よく頑張っていたな、良かったよ」と言われたこともありました。自分の長所について教えてくれる人が周りにいたのは貴重だったと思います。

島 田：あとは全国各地で知り合いができて、泊めてくれる人がいるのはありがたいです。

！学生時代の後悔

池 田：今ふり返って、「学生のときにこれやっておけばよかった」ということはありますか？

升 谷：起業しておけばよかったと思います。社会人になると、会社の仕事も忙しくなり、時間もなくなります。学生の時も忙しかったですが、今より優先順位を決めることは難しくないです。



▲小久保さん（鼻にティッシュを詰めている人）

島 田：学生時代もそれなりに本は読んでいましたが、もっと世の中でどんなことが行われているのかということをもっと知っておけばと思います。今は、土日が休みというのが新鮮ですが、学生時代もう少しインプットする時間を取ればよかったです。

小久保：島田さんも言っていますが、自分ともっと向き合う時間を作った方がよかったと思います。自分の好きなことや、価値観についてもっと追求していくべきでした。

長谷川：後悔はないですね。思い出すのは楽しかったことばかりです。私は下村代表の「学生は微力ではあるが、無力ではない」という言葉が自分の原点だと思っています。若い時は、自分の可能性に対して過大評価していたものですが、災害派遣などに行くたびに自分の微力さを痛感しました。それでも無力ではなかったと前を向く事ができたんです。あとはお金に関する知識ですかね。奨学金を貯めて、投資に回して増やしている人がいました。

！これからのIVUSAに期待すること・OBOGとしてのかかわり方

池 田：IVUSA も 2022 年で 30 周年を迎えました。特に記念事業をしなかったのが IVUSA らしいのですが、今後 40 周年・50 周年に向けて、こんな IVUSA になって欲しいという期待はありますか？

小久保：自分は、IVUSA という組織で誰よりもわくわくしながら走ってきました。今、「IVUSA が忙しい」ということを言う学生が多いと聞きましたが、夢中になっていたら忙しいとは思わないです。義務感だけだと大変なので、学生たちがわくわくしながら IVUSA にかかわって欲しいです。学生たちの負担を減らすためにも、我々 OBOG が口を出すよりも、お金を出すことを考えていかないといけないと思っています。

升 谷：好き勝手、学生たちが遊べる場であって欲しいと思います。私自身、IVUSA を選択肢、手段として使っていました。「3,000 人の組織を運営する」「災害現場で床下に潜る」「国際協力で海外に行く」、など人によっていろんな遊びができるようにしておいていただきたいです。

島 田：つい先日まで私自身も学生でしたが、今のIVUSAの学生に危機感を持っています。災害現場に行く学生の割合も少ないし、「IVUSA だからこそできること」を大切にできていないのではという焦りのような気持ちもあります。升谷さんのご意見とは逆になりますが、IVUSA を単なる一つの選択肢だと思っていると、それだけでは何もできないと思うのです。OBOGの皆さんが積み上げてこられたものを学生たちに知ってもらいたいですね。

長谷川：私は卒業後、正直 IVUSA をずっと避けてきました。学生代表というのは言わば「猿山の頂点」で、社会に出ればまた底辺から始まるわけです。IVUSA に顔を出せば、「レジェンド世代の人」ということでチャホヤされることも分かっていたんですが、それは逃げじゃないかと思ったわけです。ただ、いつか恩返しはしたいと思っていました。主役である学生の成長の機会を邪魔しないかたちで IVUSA に関われなかと。そこで利島の椿の話を持ってきました。

池 田：利島での活動が今年で10年ということで、ぜひその辺りの話を聞かせてください。

長谷川：私どもの会社は油問屋から始まりまして、古くから多くの油を取り扱っています。その一つが椿油なのですが、東京都の離島、利島の椿油は、江戸時代には江戸の殿様にも献上されていたくらい歴史があるものの、最近は農家の高齢化や木自体の樹齢が古くなり更新が急務であることなど、仕事から農協の人から将来の不安を相談されていました。以前、下村代表から「大義名分があれば活動に行ける」と言われていたので、これは大義名分になるんじゃないかと思ったんです。椿産業の商業的プロセスに無償の労働力に組み込むのではなく、「人と人とのつながり」を重視して、文化の維持存続、学生と椿農家の交流を始めたのがきっかけです。

池 田：会社に対してはどんなインパクトがあったんですか？

長谷川：環境省が地域で環境・社会・経済の課題を同時解決する企業を、「地域循環共生圏（ローカルSDGs推進）企業」として認定していて、弊社もその一つです。その「ローカルSDGsの実現に貢献できるソリューション」の一つが椿の保全活動で、IVUSA との協働も明記

されています。

[http://chiikijunkan.
env.go.jp/kigyous/list/](http://chiikijunkan.env.go.jp/kigyous/list/)
(174 番目)

企業はSDGsに貢献しているかどうかを、今まで以上に社会から問われるようになりました。例えば、弊社も世界最大の一般消費財メーカーのP&G社などの取引先から

サプライチェーンアンケートとして「SDGsに関する事業をやっていますか？」という質問を受けることもあります。SDGsの関連事業をしているかどうかと言わば取引継続の死活問題にもなっているのです。

私見なのですが、IVUSA もこれをチャンスとして、今以上に企業との協働を進めていくべきと思っています。単なる寄附ではないかたちで企業から資金面の支援が得られれば、学生の負担も減るし活躍の場も増やせると考えます。そのためにまずは、IVUSA のホームページにそれぞれの事業がSDGsのどのゴールに紐づいているかアピールするのもひとつかと。更にその下の169のターゲットのどれに具体的に貢献しているかを分かりやすく紹介することで、マッチする企業に興味を持ってもらうことができ、起点になるのではないのでしょうか。

小久保くんも言っていましたが、学生に金と場を提供するのが先輩の役割。そのモデルを利島で作ってきたいですね。



▲池田さん
(たぶん山梨県小菅村での合宿の時)



▲対談の様子

協賛企業一覧

■物品協賛

キヤノンマシナリー株式会社
西菱電機株式会社
株式会社オンザウェイ
クラシエフーズ株式会社
株式会社ビジョン
株式会社西伊豆プロジェクト
ダイヤ製薬株式会社
ショーワグローブ株式会社

株式会社ヤギショー
株式会社オーシャンライフ
株式会社ランドアート
株式会社サタケ
滋賀建機株式会社
株式会社ユタカメイク
株式会社シバタ
薪文化

ジェクス株式会社
株式会社扶双
株式会社マンダム
株式会社鳥部製作所
弘進ゴム株式会社
兼一薬品工業株式会社
株式会社ほんやら堂
スリーアール株式会社

■法人会員

青山国際教育学院
三菱マテリアル株式会社

西菱電機株式会社
カナダ株式会社

Il Azzurri (イル・アズーリ)

メディア掲載一覧

No	活動名	掲載メディア	掲載日
1	西伊豆町でのインターン	あなたの静岡新聞	2022年8月12日
2	山形県日本海沿岸清掃活動	プレビュー山形	2022年8月27日
3	長崎県対馬市海岸清掃活動	対馬新聞	2022年8月19日
4	山形県日本海沿岸清掃活動	荘内日報	2022年8月25日
5	長崎県対馬市海岸清掃	朝日新聞	2022年8月30日
6	琵琶湖外来水生植物除去大作戦 2022	びわ湖放送	2022年9月9日
		読売テレビ、関西テレビ	2022年9月10日
		毎日新聞、京都新聞	2022年9月11日
7	静岡県西伊豆町活性化活動	テレビ静岡	2022年9月10日
8	オオパナミズキンバイ除去活動	毎日新聞、京都新聞	2022年11月20日
9	西伊豆町での「バイオ炭」を使った農業への取り組み	静岡新聞	2023年1月31日
10	沖縄県石垣島海洋漂着ゴミ水際掃討大作戦	八重山毎日新聞	2023年2月24日
11	七ヶ谷雪ほたる	サンデーいわふね	2023年2月19日
12	山形県日本海沿岸清掃活動	山形テレビ	2023年3月8日
		荘内日報	2023年3月10日
13	長野県伊那谷環境保全活動	中日新聞、SBC 信越放送	2023年3月15日
14	山形県日本海沿岸清掃活動	朝日新聞デジタル	2023年3月15日
15	沖縄県石垣島海洋漂着ゴミ水際清掃大作戦	八重山毎日新聞	2023年2月24日・3月1日
16	長崎県対馬市海岸清掃活動	読売新聞	2023年3月16日
17	沖縄県戦没者遺骨収集活動	琉球新報	2023年3月30日
18	長崎県対馬市海岸清掃活動	対馬新聞	2023年3月31日
19	宮城県山元町東日本大震災復興支援活動	河北新報	2023年3月12日・3月17日



①2022年8月12日付「あなたの静岡新聞」



②2022年8月27日付「プレビュー山形」



③2022年8月19日付「対馬新聞」



④2022年8月25日付「荘内日報」



⑤2022年8月30日付「朝日新聞」



⑥2022年9月10日付「読売テレビ」



⑧2022年9月10日付「関西テレビ」



⑦2022年9月11日付「毎日新聞」



⑥2022年9月11日付「京都新聞」



⑦2022年9月10日付「テレビ静岡」



⑧2022年11月20日付「毎日新聞」



⑧2022年11月20日付「京都新聞」



⑨2023年1月31日付「静岡新聞」



⑩2023年2月24日付「八重山毎日新聞」



⑪2023年2月19日付「サンデーいわふね」



⑫2023年3月10日付「荘内日報」



⑬2023年3月15日付「中日新聞」



⑬2023年3月15日付「SBC信越放送」



⑭2023年3月15日付「朝日新聞デジタル」



⑮2023年2月24日付「八重山毎日新聞」



⑯2023年3月16日付「読売新聞」



⑰2023年3月30日付「琉球新報」



⑱2023年3月31日付「対馬新聞」



⑲2023年3月12日付「河北新報」

収支報告書

書式第13号（法第28条関係）

令和4年度 活動計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会
(単位：円)

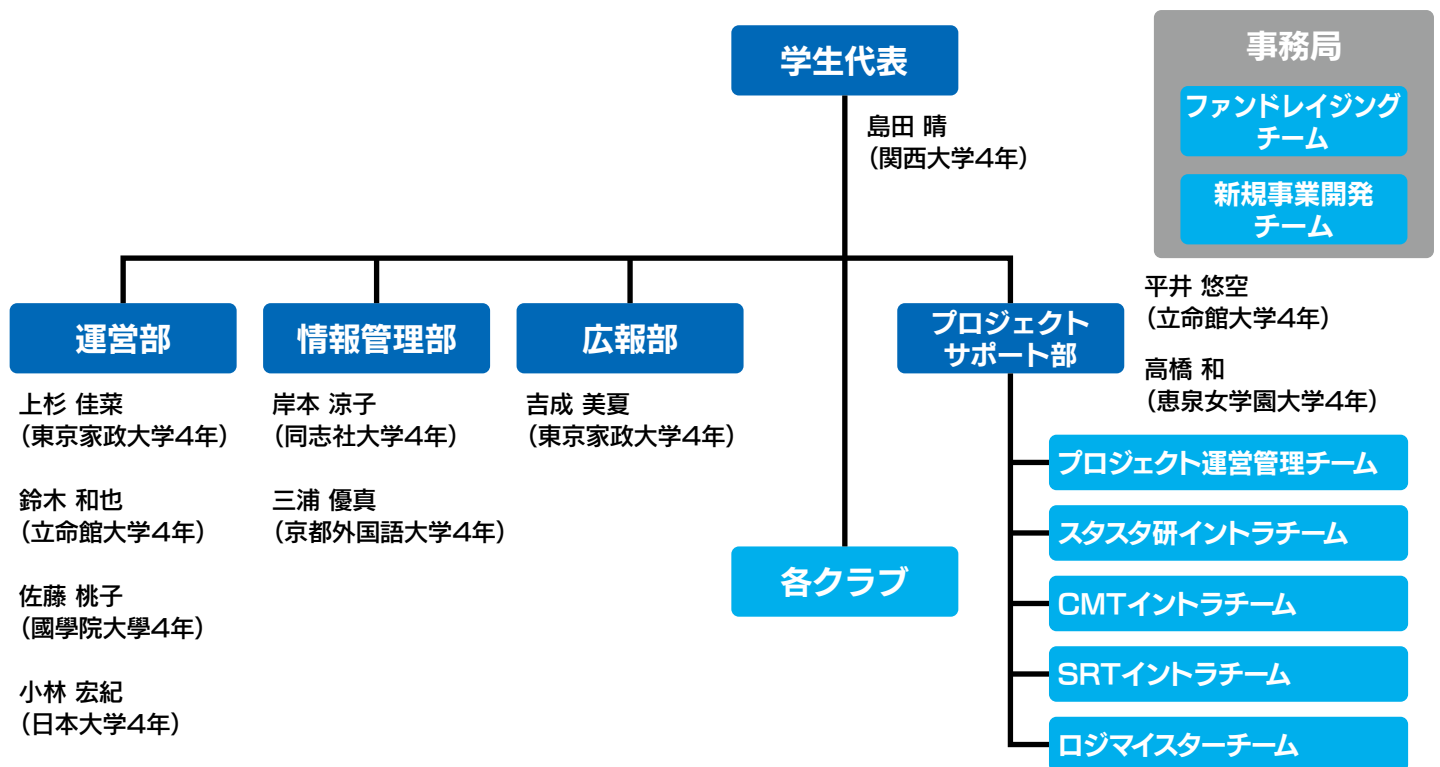
科目	金額		
I 経常収益			
1 受取会費			
入会金	6,962,000		
学生会員受取会費	25,187,900		
その他の会員受取会費	1,790,000	33,939,900	
2 受取寄附金			
受取寄附金	2,927,379		
受取寄附金（募金）	152,325	3,079,704	
3 受取助成金等			
受取助成金	22,530,349		
受取補助金（業務委託収入）	12,543,693	35,074,042	
4 事業収益			
国内及び国外における、国際協力活動、環境保護活動、地域活性化活動、災害救援活動、子どもの教育支援活動等の社会貢献事業収益	68,531,613	68,531,613	
5 その他収益			
受取利息	844		
雑収入	126	970	
経常収益計			140,626,229
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	39,875,952		
法定福利費	5,640,823		
人件費計	45,516,775		
(2) その他経費			
その他事業費	73,629,730		
期首商品棚卸高	3,439,243		
期末商品棚卸高	▲ 3,411,853		
その他経費計	73,657,120		
事業費計		119,173,895	
2 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬	2,800,000		
給料手当	1,781,000		
法定福利費	344,925		
福利厚生費	34,623		
人件費計	4,960,548		
(2) その他経費			
賃借費	8,985,480		
旅費交通費	838,409		
車両費	745,042		
通信費	114,430		
消耗品費	914,654		
諸会費	136,000		
租税公課	2,894,624		
支払手数料	243,595		
荷造り運搬費	103,797		
会議費	575,420		
慶弔費	0		
水道光熱費	741,826		
減価償却費	0		
図書情報費	51,229		
雑費	0		
業務委託費	2,530,650		
リース費	450,111		
ネット関連費	990,787		
ゴミ処理費	252,398		
その他経費計	20,568,452		
管理費計		25,529,000	
経常費用計			144,702,895
当期経常増減額			▲ 4,076,666
III 経常外収益			
為替差益	338,083		
経常外収益計		338,083	
IV 経常外費用			
為替差損	0		
経常外費用計		0	
税引前当期正味財産増減額			▲ 3,738,583
法人税、住民税及び事業税			150,000
当期正味財産増減額			▲ 3,888,583
前期繰越正味財産額			82,544,735
次期繰越正味財産額			78,656,152

※千葉の給与のみ管理費に按分（法定福利費もそれに合わせて按分）

※車両費の中で事業のために使われた3,153,610円を事業費の

「その他の経費」に按分

—— 30期學生組織 ——



●クラブ一覧

東京世田谷クラブ
東京砧クラブ
東京駒沢クラブ
東京市ヶ谷クラブ
東京三崎町クラブ
東京白山クラブ
東京板橋クラブ
東京小日向クラブ
東京大塚クラブ
埼玉越谷クラブ

東京多摩クラブ
東京八王子クラブ
東京日野クラブ
神奈川白楽クラブ
群馬高崎クラブ
山形酒田クラブ
京都衣笠クラブ
京都今出川クラブ
京都上賀茂クラブ
京都西院クラブ

京都京田辺クラブ
京都深草クラブ
大阪高槻クラブ
大阪吹田クラブ
大阪茨木クラブ
大阪東大阪クラブ
兵庫西宮クラブ
滋賀草津クラブ
滋賀瀬田クラブ
長崎佐世保クラブ







中国語



韓国語

 **クラスレッスン**

2名～6名の少人数制ですので、
きめ細かい授業が行えます。

 **プライベートレッスン**

一対一でじっくりと「わかる」「使える」
実践的なスキルを身につけます。

 **企業派遣**

ご要望を調査し、目標に向けた
オリジナルカリキュラムを作成。

 **表参道から徒歩5分**

学校や会社のあとにも通える
便利な立地です。



青山国際教育学院

TEL : 03-3403-1901

〒107-0062 東京都港区南青山3-8-40 青山センタービル3F





熱意は人を動かし、社会を動かす®

<https://www.ivusa.com/>

2023年 7月

発行・編集：特定非営利活動法人 国際ボランティア学生協会 (IVUSA)

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 1-34-4 ザ・アゼリアハウス B-102

Tel/Fax 03-6751-2683 E-mail ivusa-office@ivusa.com